

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	通級指導教室推進事業			事業番号	09-105
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	教育部学校教育担当	大高 敏夫	教育指導課教育センター	本多 由佳里	

計 画 (Plan)

総合計画体系	暮らし力	まちづくり目標	1	誰もが明るく暮らせるまち	
		基本政策	3	人がつながり未来を拓く学び合うまちづくり	
		施策展開の方向	1	子どもの生きる力をはぐくむまちをつくる	
		施策	9	きめ細やかな教育の推進	
予算事業名	通級指導教室推進事業費				
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 (選択してください)→			法令上の位置づけ	できる規定がある
事業開始年度	開始年度	平成2年度	～	終了年度	-
関連法令等	学校教育法施行規則第140条・第141条				
国・県の計画等	教育振興基本計画(第2期計画)			計画期間	平成25年度～平成29年度
関連個別計画	伊勢原市教育振興基本計画(後期)			計画期間	平成25年度～平成29年度
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	小学校の通常の学級に在籍する児童で、主に発達障害のある児童や言語障害のある児童の学びの場の1つとして、通級による指導が有効である。また、通級による指導の効果が認められ、指導に対する理解が深まるにつれて、入級を希望する児童や保護者が増加している。				
目的 (何をどうしたいのか)	集団行動やコミュニケーション、言葉の理解や表現が苦手な児童が、学校生活に適応することができるよう、通級指導教室「まなびの教室」「ことばの教室」を設置して、児童・保護者並びに児童が在籍する学校を支援する。				
主な対象 (誰・何を対象に)	通常の学級に在籍する児童で、通級による指導が必要な児童				
事業内容 (手段、手法など)	<ul style="list-style-type: none"> 通級指導教室への円滑な入級・退級のためのシステムを改善しながら運用し、通級指導教室の運営と指導等の充実を図ります。 支援を必要とする児童へのよりよい指導のために教職員の研修の充実を図ります。 				
事業行程	項目	年度			
		28年度	29年度		
	「まなびの教室」の設置	1校1教室2カ所	1校1教室2カ所		
	「ことばの教室」の設置	1校1教室2カ所	1校1教室2カ所		
目 標	【指標名】	【現状】	年度		
			28年度	29年度	
	「まなびの教室」の受入可能児童数	24人	28人	29人	



事業実施(Do)へ

事業実施 (D○)

事業の「取組方針」 (前年度事務事業評価)	潜在的にニーズのある児童が、指導を受けられるよう、ニーズを把握する共に、現在あるシステムの改善を図る。引き続き、児童一人ひとりのニーズに対応した適切な指導を推進する。		
実施方法 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> すべて直接実施 <input type="radio"/> 左記以外		
	<input type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	委託先又は指定管理者
	<input type="checkbox"/> 補助金		補助先
	<input type="checkbox"/> その他		具体的内容
実施結果	項目	年度	
		28年度	29年度
	「まなびの教室」の設置	1校1教室2カ所	
	「ことばの教室」の設置	1校1教室2カ所	
実施した取組の内容	通級指導教室推進委員会を開催し、入退級について審議を行った。必要な教材・教具を効果的に購入するとともに、使用機器の点検整備を実施し、担当教員の指導が行いやすいように環境整備を図った。また、「ことばの教室」及び「まなびの教室」において児童を受け入れ、通級指導を行った。		
目標の達成状況	【指標名】	【現状】	年度
			28年度
	「まなびの教室」の受入可能児童数	24人	29人

年度		28年度 実績				29年度 実績			
事業費合計 (a)		364	千円				千円		
内訳	国県支出金 ①	0	千円				千円		
	地方債 ②	0	千円				千円		
	その他特財 ③	0	千円				千円		
	一般財源 (a)-①-②-③	364	千円				0	千円	
国県支出金の内容									
コスト	その他特財の内容	受益者負担		<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無		前回の改定時期			
		その他							
人件費	正規職員	0.19	人	1,644	千円		人		千円
	その他の職員	0	人	0	千円		人		千円
	人件費合計 (b)	0.19	人	1,644	千円		人		千円
トータルコスト (a)+(b)		2,008	千円						
単位当たりコスト	対象数	通級のべ児童数		単位					
	対象数	57	人						
	総事業費／対象数	35,228	円						

評 価 (Check)				
進捗状況 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり (A) <input type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)	A	左記判断理由	平成2年度に「ことばの教室」を設置して、教室運営を推進してきた。また平成24年度に「まなびの教室」を新設し、平成26年度には指導場所を2箇所を増設し受入可能児童数は目標値を達成できた。
実施水準 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input checked="" type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input type="radio"/> 一律に比較できない事業	B	他都市の事業内容等	県内多数の市が、本市と同様に2種類の通級指導教室を設置している。なお本市では1校に2種類の通級指導教室を設置しているが、近隣市では通級の利便性などから、複数校に通級指導教室を設置している市がある。
有効性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 高い (A) <input type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)	A	左記判断理由	通級による指導により、集団行動やコミュニケーション、言葉の理解や表現が苦手な児童が、学校生活に適應することができるよう、児童の主訴の改善が見られ、学校生活をスムーズに送れるようになっている。
効率性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である (C)	A	左記判断理由	児童の実態を的確に把握し、入退級の見極めを行うことにより、通級する児童数が増加した。


 取組の改善 (Action)へ

取組内容の改善 (Action)				
所属長による今後の方向性の判断	方向性 〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 見直しの上継続	事業推進上の課題	通級指導教室推進委員会の中で、運営・指導及び入退級について総合的に協議を進めてきた。潜在的ニーズのある児童が増加しているなか、受入に限りがあることが課題となっている。
次年度取組方針		個別に支援が必要な児童・生徒が増加傾向にある中、早期発見・早期対応が可能な支援体制の構築が重要である。そこで、「まなびの教室」を1箇所増設し、受入体制の充実を図る。児童の実態を把握し的確な目標設定を行い、入退級を適切に見極め、ニーズのある児童が指導を受けられるよう、現在あるシステムの改善を図っていく。		
所管部長による総評		支援が必要な児童に対し、通級指導教室推進委員会において協議を行い、入退級の在り方について検討を行うことができた。引き続き、適切な運営に努める必要がある。今後も、学校との協働により、早期発見・早期対応を図ることが大切である。この事業の有効性は高く、今後も推進すべきと判断する。		